

安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域づくりの実践をサポート ーリバフロサポートセンターの設立及び運営報告ー

A report on the establishment and activities of the Riverfront Support Center

リバフロサポートセンター長／主席研究員 **中村 圭吾**
 自然環境グループ 次 長 **都築 隆禎**
 自然環境グループ 研 究 員 **白尾 豪宏**
 自然環境グループ 研 究 員 **内藤 太輔**
 水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 **和田 彰**
 水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 **阿部 充**

1. はじめに

当研究所は、河川・流域の治水・自然環境・生態系、水辺のにぎわい、さらには健全な水循環系の視点から、これからの社会のあり方や価値観を提案し、その実現に向けた課題を見出し、施策提言・研究・技術開発・普及啓発などの活動を通じてその解決を図るとともに、現場実践、多様な主体との連携・協働を通じてスタンダードをつくり社会実装させることに挑戦している。

当研究所が強みとするテーマに関連する情報、研究成果、技術等を社会に還元するとともに、行政職員・市民団体・技術者・研究者など全国の川づくり・地域づくり・流域づくりの担い手を支援する窓口として、2022年7月22日（金）にリバフロサポートセンター（以下「サポートセンター」という）を設立した。

本稿では、サポートセンターの概要及び初年度となる2022年度のサポート実績を報告する。

2. リバフロサポートセンターの概要

サポートセンターは、これまで当研究所が事務局を務めている「多自然川づくりサポートセンター」や「日本河川・流域再生ネットワーク」の一部機能を引き継ぐとともに、「かわまちづくり」や「河川環境管理シート」などの支援体制を強化することから着手し、治水と環境とにぎわいが共存する川づくり・まちづくり・流域づくりの更なる推進に貢献することを目的に運営している。

サポートセンターの当研究所内及び社会との関わりの体系図を図-1に示す。

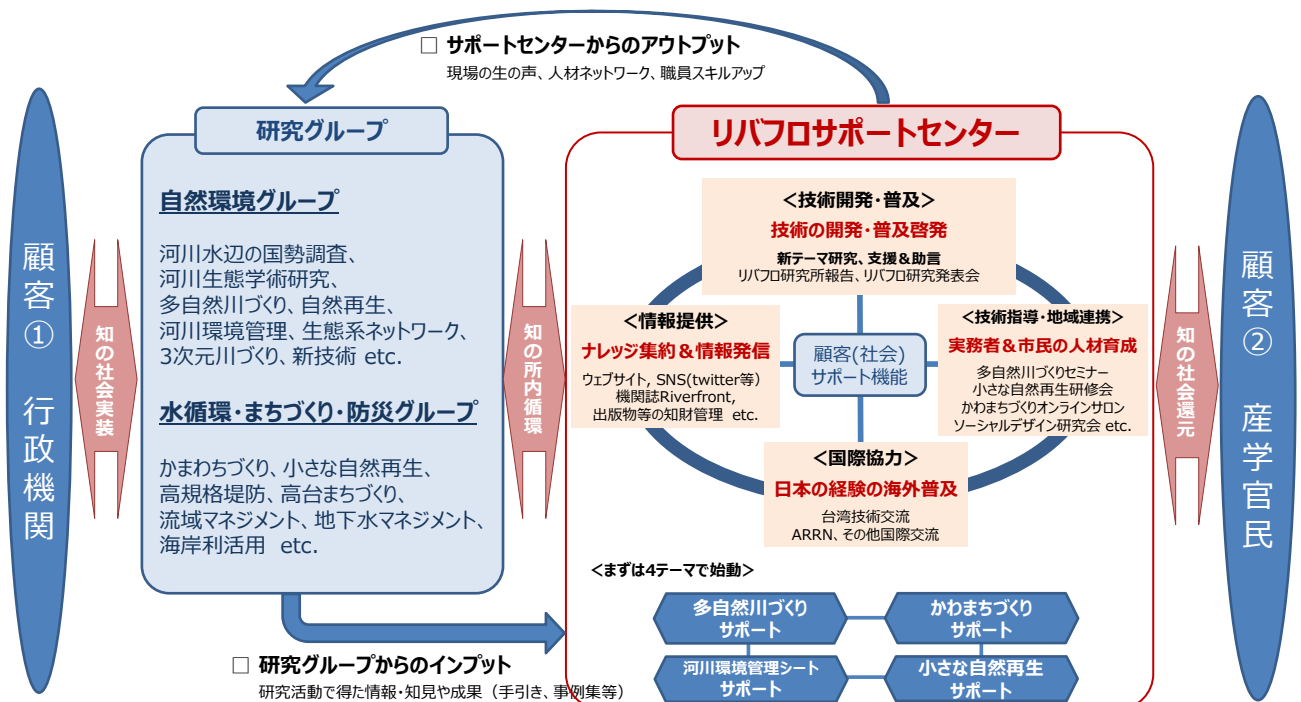


図-1 リバフロサポートセンターの体系図

3. 2022年度のサポート実績

3-1 今年度サポート実績の概要

2022年7月から翌年3月末までの約8か月間で、サポートセンターへ計38件の支援要請や相談等を頂いた。サポートしたテーマ（窓口）の内訳は図-2の通りであり、各窓口のサポート内容の概要を以下に示す。

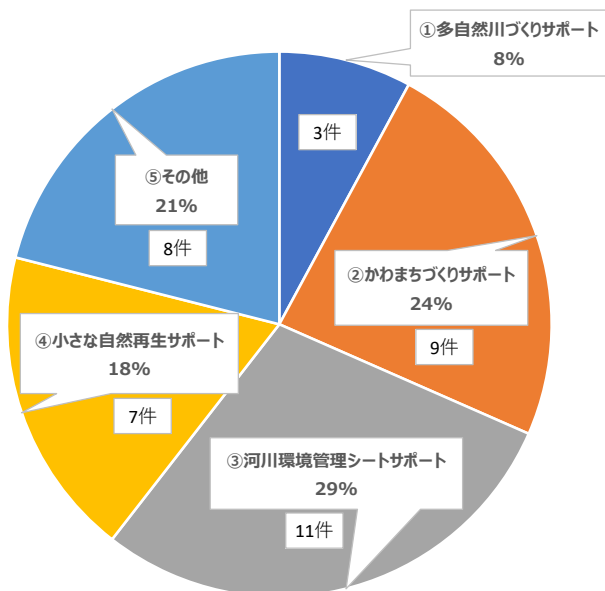


図-2 サポートセンターによる支援内訳(2022年度)

3-2 各サポート窓口による支援の概要

(1) 多自然川づくりサポート

多自然川づくりサポート窓口には、関東及び東北の2つの高校より、学校そばを流れる河川の環境改善に向けたアドバイスの要請があった。関連する情報提供や、現地の写真等を踏まえた技術的な助言を行い、地元主導で取組み可能な多自然川づくりのノウハウを支援した。また、民間企業での河川環境に関する講演、鹿児島県からの依頼に基づく「多自然川づくり研修会」での講演など、多様な相談者・依頼者へのサポートを行った。

(2) かわまちづくりサポート

かわまちづくりサポート窓口には9件の問い合わせを頂いた。その内の7件が国や地方自治体の行政機関より、また2件は地元の協議会に関係する民間セクターからの相談であった。主な相談内容としては、かわまちづくり支援制度を活用した川を活かした地域づくりを考える中での、支援制度そのものへの質問、地域の仕組みづくりのノウハウ、また他地域の優良事例に関する情報提供依頼などであり、特にどのように進めていけばよいか、という点について問い合わせを頂くことが多かった。

相談者との意見交換を通じ、かわまちづくりに取り組む主体が行政・民間のそれぞれの立場で全国に多くいることが分かり、更なるかわまちづくりの推進に向け、こうした現場で活動する人たちの声を聞きつつ、サポートすることの重要性・必要性を再認識した。

(3) 河川環境管理シートサポート

河川環境管理シートサポート窓口には11件の問い合わせを頂いた。その内の6件が国の地方整備局や河川管理事務所から、また5件は建設コンサルタントの実務者からの相談であった。

質問内容としては、「河川環境区分」や「注目種」の選定に関わるもの、また対象河川特有の地理的条件等を踏まえた「代表区間」の選定など、作成に際しての相談や妥当性に対する意見聴取が主であった。その他、エクセル様式における計算式のバグなど、貴重な意見もいただいた。

これらの質問事項は、今年度発出予定である改訂版マニュアルの作成等に生かすことができ、サポートセンターを通じたユーザーからのフィードバックの有用性を認識することができた。

(4) 小さな自然再生サポート

小さな自然再生サポート窓口には、小さな自然再生に関わる資料提供依頼、取材や講演や現地指導の要請、また実際の現場でできそうなメニューの相談など、様々な目的で小さな自然再生の活用を考えられている主体からの問い合わせが多かった。

サポートセンターを通じた活動主体とのやりとりから、小さな自然再生が着実に全国に浸透しつつあることを実感できた。一方で、技術や仕組みづくりに関するノウハウの汎用化が追いついておらず、例えばノウハウ集の様な支援ツールを用意するなど、更なる普及に向けた社会のニーズを把握することができた。

(5) その他サポート

上記の4つの窓口に分類されない相談として、海外からの技術交流等に関わる要請が5件、その他河川環境全般に関わる相談や講演依頼を3件頂いた。

4. おわりに

サポートセンターの設立は、川づくりの担い手の困りごとに直接触れる貴重な機会となり、望ましい河川環境の創出に向けて現在不十分な技術や仕組み、支援ツール等を具体的に理解することもできた。サポートセンターの運営を通じて、安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域づくりに貢献するとともに、サポートする側の職員のスキルも更に高めていきたい。